

第 14 回福岡県美しいまちづくり賞 受賞 作品

福岡県美しいまちづくり賞

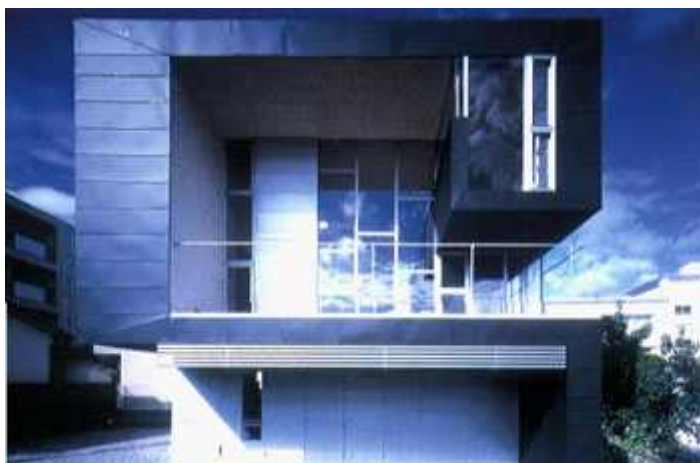
大賞

受賞作品

大野城の住宅

【住宅の部】

建築主 : 重松 賢信
設計者 : (有)NKS アーキテ
クツ
施工者 : (株)いまむら建装
所在地 : 大野城市山田
竣工年 : 平成 12 年 8 月
月



設計趣旨

黒と白のプレートは、生活空間の暗く落ち着いた場所(寝る)、開放的な場所(くつろぐ)、眺めのいい場所(仕事)を包み込んでいる。西側の庭は、一階の室内に光と奥行きを与え、また夫婦の趣味であるハングライダーの機体を車に積んだまま回転できるスペースとなっている。ロフト部分からは、南側の大きな開口部を通して遠くの山並みを見渡せ仕事場として使われている。ロフト下は、音楽やテレビを鑑賞するための場所である。



講評

狭い袋小路の奥深くに淡然と立ち、白と黒とに塗り分けられた直方体のフォルム。

ガルバリウム鋼板で包まれたその特異な外観は、しかし、池に投げ込まれた石の波紋のように、個性に欠ける周辺風景にさわやかな風を送っている。これほど建物一つで周囲の空気を変えることは滅多にできることではない。内部においては、住人の大らかな生活感に応じるように、個々の空間が独自の領域を主張しつつ、かつ重合し、開放的ながらメリハリを持ち、そして包容力のある豊かな内部空間が得られていて秀逸である。作者のいう空間を「つつむ」「ひらく」という形態操作の結実であろうが、この小住宅が普遍性のある確かな建築観から生まれたことに賛意を示したい。

福岡県美しいまちづくり賞

大賞

受賞作品



ひふ科いのクリニック

【一般建築の部】

建築主 : ひふ科いのクリニック
設計者 : 藤木秀俊建築計画工房
施工者 : (株)金子工務店
所在地 : 久留米市野中町
竣工年月 : 平成 12 年 10 月

設計趣旨

精神的な安らぎを与え、地域に貢献度が高いクリニックを目指した。外観は和風調とし、外構にカツラ等の雑木を植えホッとさせる懐かしさを与えられる建物とした。内部は、木質系の安らげる空間を基調とした。採光通風用の中庭を設け、時計回りに動線をサーキュレートできるように計画した。材料は、人体に無害な建材を使用しシックハウス症候群の患者に考慮した。また、段差解消する事により人に優しい建物とした。



講評

そのデザインは過度に自己主張せず、かといって周囲の風景に埋没することもなく、昔からここにあったような自然な佇まい。内部も特に目を見張るような空間も仕掛けもなく、訪れる人に淡々と心和む場を提供している。皮膚病は実はストレスなど精神的なものに原因があり、病気を癒すには心の安寧

が大切であると聞かされると、この建物の内外にたゆたうゆるやかな時間の流れに得心がいく。間違いなくこれが設計者の狙いに違いない。この思いが良心的な地域医療を志す医者が発意により実現した。もとより設計者は施主によって選ばれるのだが、設計者こそ施主を選ぶべき存在であることがこの作品を見ると実感できる、そういった作品である。

福岡県美しいまちづくり賞

大賞

受賞作品

八女市多世代交流館 「共生の森」

【一般建築の部】

建築主 : 八女市
設計者 : (株)青木茂建築工房
施工者 : 西松・大坪特定建設工事共同企業体
西松建設(株)九州支店・大坪建設(株)
所在地 : 八女市大字高塚
竣工年月 : 平成 13 年 3 月



設計趣旨

既存建物を、機能を保ちながら耐震補強と増築により再生(リファイン)した。八女のお茶を意識し「和風」をコンセプトとしている。増築部分の北側ファサードは金属板にすることにより「屏風」をイメージし内部は八女の杉で仕上げている。南側はお茶の野点ができるような「ぬれ縁」を表現している。既存部分の外壁は経過年数を考えカーテンウォール、金属板で覆った。解体工事において発生した廃材は、駐車場の路盤に利用した。

講評

築後約 30 年の福祉施設のコンクリート躯体を残して耐震補強を施すと共に、新しい機能に合わせて空間を付加し、それまでの建築の記憶も残しながらも全く新しい平面と外観を造り出したこの建築は、環境破壊につながる産廃問題の解消や建築の長寿命化といったエコロジカルな視点から建築づくりが求められる時代状況におい

て、まさにその先進的で重要な実践を体現したものとして注目される作品である。低コストも可能にしたこのリサイクル建築の手法は地球に優しい建築の実現に有効であるばかりでなく、財政難にあえぐ地方自治体における有効な公共建築づくりの事業手法として啓蒙的な意味を投げかけたものといつてよいであろう。

福岡県美しいまちづくり賞

優秀賞

受賞作品



海辺の家

【住宅の部】

建築主 : 川口 克巳
中川 英子
設計者 : 大石和彦建築アトリエ
施工者 : (株)甲斐建設
所在地 : 志摩町野北
竣工年月 : 平成 13 年 1 月

設計趣旨

施主は、海を見ながらの生活を思い続けてきた夫妻である。夫妻は海への眺望の美しさを多くの人と共感できる開かれた住まいを求めている。敷地は、自然公園法や崖地条例によって厳しい制約があった。自然の題材を住宅の空間として取り込むために、外壁を白と黒のコントラストをベースに開口部(居間)を意識させないデザインとした。居間と浴室からは、玄界灘と野北の山が眺望でき、床座から海の風景を捉える事ができる。



講評

海側のアクセス路から見上げる姿は誠に美しく、天井の色を抑えた2階の居間から望む玄界灘は、まさに一幅の絵のようである。しばしば自然は人工的な装置を通してより輝きを増す。ここに佇むと否が応にもそのことを実感させられる。海に開くその空間手法そのものに目新しさを感じられるわけではないが、開口部の高さや広がり注がれた心地よいスケール感、破綻のない室内の色調や仕上げなど、ものづくりの確かな腕をそこに発見できる。そし

て、何よりも居住者がこの家を愛おしく感じ、この家と共に過ごすことの喜びを語るとき、この家は一段と輝きを増すのである。

福岡県美しいまちづくり賞

優秀賞

受賞作品

脇田海岸の小住宅

【住宅の部】

建築主 : 大下 光明
大下千代美
設計者 : 矢作昌生建築設計事務所
施工者 : 明和工業(株)
所在地 : 北九州市若松区大字頓田
竣工年月 : 平成 13 年 3 月



設計趣旨

「大きなウッドデッキ」は、エントランス、アウトドアリビング、縁側等として機能する。「深い庇」は、ウッドデッキの半屋外スペースの変換と室内と大きな庭を接続する役割を果たす。これらの外部空間によって、周辺の豊かな風景へと無限に拡張される。ローコスト化を図るため床面積を抑え、また主要構造は鉄骨造で全部材を亜鉛メッキの上塗装仕上げ、外装はガルバリウム鋼板や窯業系サイディング等とし塩害に強い材料とした。

講評

住まいづくりには独自のドラマとストーリーがある。住人が30年前に海岸を望む土地を購入、いつかは海を見て暮らしたいと思い続け、子供の独立を機に都心のマンションを売却、そして夫婦2人の家を建て、長年の思いを遂げようと試みた。設計者はその思いに寄り添い、海に抱かれるという贅沢以外の豊かさをむしろかき消すかのように無駄のない軽やかな家を作り上げた。小さい家ながら豊かな広がりを感じさせるのは、海に向かう開放的な開口部のせいばかりではなく、建物の前後に配されたウッドデッキや鉄骨造の軽快でかつ深い屋根庇など、作者による巧妙な仕掛けのなせるところであらう。

福岡県美しいまちづくり賞

優秀賞

受賞作品

北九州市立
長崎街道木屋瀬宿記念館
みちの郷土資料館
こやのせ座



【まちなみ景観の部】

建築主 : 北九州市
設計者 : (有)サム建築研究所
施工者 : (株)藤本建設
(株)佐伯建設北九州支店
所在地 : 北九州市八幡西区木屋瀬
竣工年月 : 平成 12 年 12 月

設計趣旨

当施設は、長崎街道の宿場町の面影残る地域にある。地域の特性を生かし、保全しながら活用するために総合的な計画を行っている。みちの郷土資料館は体験学習、こやのせ座は県の無形文化財「木屋瀬おり」等の伝統芸能を主体とする催しに使用される。また、ボランティアには、地域住民の活用できるスペースを持つ。これらによって、地域全体がストリートミュージアムのような機能を持った地域の拠点となる建群である。



構評

並み全体の保全・修景の一環として、またその事業推進の拠点施設として計画されたこの記念館は、全く新規に街並みへ入られる施設ゆえに、求められる施設の内部機能・規模、町のシンボルとしての役割、外観デザインにおける周囲の街並みとの調和といった対立しがちな計画要件の調整に多大な苦心が求められてきた。この難事業に、周囲に残る伝統的な家々の肌からきめ細やかにデザインコードを抽出すると共に、各地に残る伝統建造物範を得て作り上げた寸法体系を駆使するなどの対応した事業者および設計者の地道な努力は高く評価される。と同時に、この事業の実現に多年にわたり協力を続けてきた

元住民の貢献も称えられねばならないであろう。
